

令和元年6月28日現在

機関番号：32428

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K15894

研究課題名（和文）訪問看護ステーションにおける教育的・効率的なカンファレンスのための尺度開発と検証

研究課題名（英文）Scale development and verification for educational and efficient conference at visiting nursing station

研究代表者

柿沼 直美 (kakinuma, naomi)

東都医療大学・ヒューマンケア学部・准教授

研究者番号：80592732

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：訪問看護ステーションの特徴として非常勤職員が多く、看護職の勤務の背景にばらつきがあることに注目し自らの看護実践を振り返ることを基盤としたリフレクション志向型カンファレンスの学習指標を開発した。学習指標は、2下位尺度20項目から構成され【カンファレンス前、気づく】、【カンファレンス中、気がかりを解きほぐす】が抽出された。

開発した学習指標を、介入により検証した。その結果、カンファレンスの報告者である訪問看護師は自らの気がかりを意識し、また参加者は、報告者の気がかりから新たな気がかりを意識することができ、カンファレンスという相互作用の場において効果的な学習指標であることが検証できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護ステーションの特徴として非常勤職員が多く、看護職の勤務の背景にばらつきがあることに注目し自らの看護実践を振り返ることを基盤としたリフレクション志向型カンファレンスの学習指標を開発した。学習指標は、2下位尺度20項目から構成され【カンファレンス前、気づく】、【カンファレンス中、気がかりを解きほぐす】が抽出された。

開発した学習指標を、介入により検証した。その結果、カンファレンスの報告者である訪問看護師は自らの気がかりを意識し、また参加者は、報告者の気がかりから新たな気がかりを意識することができ、カンファレンスという相互作用の場において効果的な学習指標であることが検証できた。

研究成果の概要（英文）：We have developed a learning index of reflection-oriented conference based on looking back at one's own nursing practice focusing on the fact that there are many part-time staff as a feature of the home-visit nursing station and there is variation in the background of the nurse's work. The learning index consisted of 20 items of 2 sub scales: 【Before the Conference, Notice】 and 【During the Conference, Relieve Concern】 was extracted. The developed learning index was verified by intervention. As a result, visiting nurses who are the reporters of the conference are aware of their own concerns, and the participants can be aware of the new concerns from the concerns of the reporters, which is effective in the interaction field of the conference. It was verified that it was a learning index.

研究分野：在宅看護

キーワード：訪問看護ステーション リフレクション カンファレンス 学習指標 介入による検証

1. 研究開始当初の背景

訪問看護ステーション(以下、ST)の多くは、非常勤雇用形態の看護師が多く(柿沼ら 2015)、施設内看護に比べそれぞれの教育背景、勤務経験の多様性にばらつきがあり(本田ら 2006)教育に対する姿勢にもばらつきがあると考えられる。また、小規模組織であることにより、従業者が外部研修に参加しにくく、学習の機会が少ない(仁科ら 2016)。訪問看護 ST は、非常勤看護師に対する教育体制が十分整っておらず研修が困難な状況である(本田ら 2006)。また、管理者のスタッフ育成への時間の確保が困難であり、スタッフの自主的な学習支援および、スタッフ自身が自己評価することが重要であると示されている(赤沼ら 2004)。そのため、日々実施されるカンファレンス(以下、CF)を、学習の機会として活用していくことは、訪問看護師にとって、極めて有効であると考えられる。

看護実践経験が豊富な看護師は、自身の体験を通し他者との経験の共有により学びを定着させ、実践者として成長していくと考えられる。また、このような臨床実践の場での学び方は、成人学習(Melanie2016; Russell2002)における学び方であり、一般に経験からの学び(Chris2014; 松尾 2014)と言われ、日々の実践活動から学びを得る事が成人には効果的であるとされている。

このような観点から訪問看護での学びは、日々の看護実践を振り返り、どのような思いでケアを実践したのか思い起こすことが重要であると考えられる。近年、実践から学ぶ具体的な方法の一つとしてリフレクションが注目されつつある(東 2014)。また、訪問看護における CF は、看護師それぞれの看護実践を伝え合う場、提供した看護の効果、評価の共有や訪問後に気がかりなことを共有する場であり、リフレクションを行う有効な機会であると考えられる。

このことから、現場の看護師にリフレクションを促す支援が必要であると考え、リフレクションを促進するための学習支援となるものがあれば、CFの場をリフレクションに有効に活用することができる考えた。

2. 目的

本研究の目的は、訪問看護 ST におけるリフレクション志向型 CF の学習指標の開発および、検証である。

3. 研究方法

本研究は、学習指標原案の作成、学習指標の信頼性・妥当性の検討の2段階の手順を実施した。質的帰納的研究の成果に基づき開発された測定用具は、現実への適合性が高いという特徴を持つ(舟島 2011)ため本研究は、ミックスメソッドとした。また、本研究では経験から学ぶための振り返り思考のプロセスとしての Gibbs リフレクション理論を基盤とした。

開発した学習指標を介入により有効性を検証した。

1) 学習指標原案の作成

- (1) CF の参加観察および、自己の実践経験を振り返ったリフレクティブな発言からの学習指標の構成要素抽出
- (2) リフレクティブな発言者へのインタビュー
- (3) インタビューの分析
- (4) 専門家会議

2) 学習指標の信頼性・妥当性の検討

(1) データ収集

研究対象者

本研究は、全国訪問看護事業協会に所属する全国の訪問看護 ST を都道府県毎に層化無作為抽出し 998 か所の訪問看護 ST とした。

データ収集期間

データ収集期間は、平成 29 年 3 月から 5 月であった。

(2) 分析方法

対象者特性および学習指標原案の記述統計

対象者特性および学習指標原案の記述統計(度数、平均、標準偏差)を算出した。

学習指標原案の項目分析

学習指標原案の信頼性の検討

学習指標原案の妥当性の検討

4. 研究成果

1) 学習指標原案作成

(1) 対象者の概要

対象者は、16 名であった。対象者の年齢は、27 歳から 57 歳であり平均年齢は、46.3 歳であった。訪問看護師の経験年数は、1 年から 20 年であり平均経験年数は、6.3 年であった。

2) 学習指標の信頼性・妥当性の検討

(1) 対象者の特性

対象者の平均年齢は、 46.3 ± 7.6 歳であった。訪問看護の平均経験年数は、 7.9 ± 6.2 年であった。

(2) 学習指標の項目分析

因子分析による尺度項目の再構成は、固有値および、スクリープロットを確認した。これを踏まえ因子数を変えながら最尤法によるプロマックス回転を用いた因子分析を行った。

(3) 信頼性・妥当性の検討

信頼性の検討

学習指標全体のクロンバック 信頼性係数は 0.956 であった。各因子のクロンバック 信頼性係数は、0.946、0.924 であった。

妥当性の検討-因子分析結果

学習指標は、自らの気がかりに気づき、気がかりを通して学ぶことが重要であることから、【CF 前、気がかりに気づく】と命名し項目数は、5 項目であった。次に、訪問看護師が看護ケアに対する気がかりをスタッフ間で共有し経験から気がかりを解きほぐす過程である。このため、【CF 中、気がかりを解きほぐす】と命名し項目数は、15 項目であった。

基準関連妥当性の検証

「リフレクション尺度」との相関係数が 0.616 であった。

結論

学習指標は、2 下位尺度 20 質問項目から構成され、尺度全体のクロンバック

信頼性係数は 0.956 であり、内的整合性による信頼性が確認された。学習指標の各因子は、リフレクション促す CF の学習指標として【CF 前、気がかりに気づく】【CF 中、気がかりを解きほぐす】が抽出され、構成概念妥当性が確認された。介入研究の検証において、看護師個々のリフレクションを促進する本学習指標は、職場内の CF で活用することにより、自己・他者の経験からの学びであり組織として成長することに貢献すると考える。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文]

投稿者氏名：柿沼 直美

演題名：訪問看護ステーションにおけるリフレクション志向型カンファレンスの学習指標の開発

論文の種類：原著

[学会発表]

第 37 回日本看護科学学会

訪問看護ステーションにおけるリフレクション志向型カンファレンスの学習指標の開発

第 38 回日本看護科学学会

訪問看護師の実践力育成に向けたカンファレンスの改善

-学習指標を活用したリフレクション効果検証-

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：本田彰子、ローマ字氏名：Akiko Honnda

所属研究機関：東京医科歯科大学大学院、部署名：在宅ケア看護学、職名：教授、

研究者番号：90229253

研究分担者氏名：神山吉輝 ローマ字氏名：Yosiki Kamiyama

所属研究機関：東都医療大学 部署名：看護基礎分野、職名：教授

研究者番号：90307009